

中川正春の永田町かわら版

2005/6/8 第236号

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町453-7 TEL: 0593-73-3933/FAX: 0593-74-3088

東京／〒100-8981 千代田区永田町2-2-1衆議院第一議員会館428号室 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

○どんな商売になるのか、

見えない民営化

郵政民営化の議論が本格的になってきました。自民党の中で迷走しているうちに、民営化が何を意味しているのか、同時に、国民にとって今度の小泉提案がどのような結果をもたらすのか分からなくなってきました。

私は、二つの目標があると思っています。一つは、郵便料金を下げること。民間業者も参入させて競争することです。もう一方で、ユニヴァーサルサービス。どんな過疎地でも郵便が出せて、届くサービスを維持すること。この両立が前提です。二つめは、郵便貯金や簡易保険の役割は、終わったということ。340兆円もの資金が政府の手によって投資配分される形は、異常です。市場の力によって配分されることが日本の金融力を増していき効率的な投資で経済を強くする源泉になります。郵貯、簡保は規模縮小から廃止です。

出てきた法律はこうした基本に答えを出しているか？今の時点では、法律の具体的な中味がほとんど見えません。民営化後の各会社のビジネスモデルが見えないのです。法律で規定されていることは、「民営化委員会を作って、これからその中味を考えていきます。」「政令や省令(国会を通さずに役人が作るルール)で、後ほど作ります。」これしかありません。国会論戦が始まってきて、政府や小泉さんの民営化論がいかにか具体的な話に立脚していないかということ、「民営化」という言葉だけが先走っていかにか混乱しているかという事が、はっきりしてきます。

○東海道州議会

県会議員や市町村会議員が中心になって、東海地域の「民主党道州議会」が津市で開かれました。地方分権を実現するために、地方議員自らが企画して、将来の東海州を語る姿に、国土交通省からきた官僚達も新鮮な感動を持って参加をしてくれたようです。

この会議で「四日市、名古屋港スーパー中枢港湾」構想

が熱心に取り上げられました。国は、東京・横浜港や大阪・神戸港と同じように四日市・名古屋港を日本の中枢戦略港湾と指定しました。24時間対応、大深水で大区画の次世代型バースを作ることで、シンガポール、香港、上海や釜山港に負けない態勢にしていく目標です。

「港の設備は資金を投じればできる。しかし、問題は、どうもそれだけではないと思う。シンガポールや香港などでは、巨大なメガオペレーター(港湾荷役運送会社)が主要港に同時進出して物流をトータルでコントロールする事によってコストを下げる世界戦略がある。日本の業界の体制整備と政府の規制緩和政策が今のスピードで本当にいいのか。」という問題提起をしました。

こうした分野では、中国やシンガポールは国策会社です。それと対抗していくためにも、日本が荷主、船会社、荷役会社とその周りの下請け並びに港湾労働組合の関係を港湾ビッグバンで再編すること。海外への投資に耐えられる事業規模とオペレーションの内容を兼ね備えたリーディングカンパニーを業界再編でつくりだすこと。こんな指摘を専門家はしているぞと、東京に帰ってから国土交通省の官僚にした途端、みんな下を向いてしまいました。内向きの利害調整から脱皮して、外に向かって物流戦略を進めるきっかけにこのスーパー中枢港湾がなっていくことが必要です。

○各地に新鮮な新人候補

熊谷正慶君、38歳、東京三菱銀行の元為替ディーラー。出身地の岐阜4区(美濃加茂から高山)で、民主党の衆議院予定候補として決定、活動を始めました。先日、美濃加茂に熊谷さんを訪ねました。本人の新鮮な情熱と周りの皆さんの熱い期待に私も感動しました。私は、このような新人を現在7人ほど応援しています。

少し時間の空いた帰り道、可児の「花フェスタ」に立寄りました。「あら、中川さん、一人でなにしとんの？」三重交通バスから降り立った地元の一団に、たちまち取り囲まれました。ちょっとサボっていると、すぐに見つかってしまいます。